

直井武夫 （昭和） 評論家。明治二十年一月二日香川縣生れ（二八九七）。

大正八年同志社大學神學部中退。十一年上京、水曜會、政治研究會で

活動。昭和二年日本共產黨入黨し、三・一五事件（黨費一齊檢挙）後

コミンテルン批判として轉向。獨學でロシア語を學び、十年内閣調査局

（のち企畫院）に入りてソ聯班主任となる。次で陸軍參謀本部に轉じ

てソ聯研究に従事。十六年企畫院事件に連坐して檢挙。その後北支那

開發本社囑託、戦後は民主労働者協會所屬。二十二年關嘉彦等と日本

文化フォーラムを創設し、雑誌「自由」を發刊した。

譯書に、レーニン著「労働者と農民」(昭和二年十一月一日共生閣

「レーニズム叢書」)、イー・ワレンシユタイン著「ハーゲル辯證法

批判」(昭和六年一月十八日春陽堂)、クズミンスカヤ著「私の見た

トルストイー義妹の日記」全二冊(上巻・昭和二十五年五月十五日、

下巻・七月二十日改造社)、ユルリス・ラモン下著「折頁學とこころのこ

ユーマニズム」(昭和二十六年十一月二十五日河出書房)、W・S・

ウオイチンスキ著「歴史を生きる」(わが生涯の回想)全二冊(一

・昭和二十五年十一月二十五日、二

・二十六年四月二十日論争社)等。

著書「ソヴェエトの協同組合」(昭

和二十二年十一月十日彰考書院)、「朝鮮戦乱の真実」(昭和二十八

年八月八日印刷・民主日本協会「民主日本文庫」)等。

